

エンジニアパーク

Engineer Ring Park

私は札幌市で生まれ、高校卒業後、山形大学で4年過ごし、現在の会社に入りました。配属先は、札幌、仙台、広島、岡山で、3年前に約30年ぶりに帰ってきました。

仕事では、南は石垣島、北は天塩まで経験することができました。現在も、道外の東北、関東、近畿など各方面からお呼びがかかり、出向くことがあります。いろいろな所で仕事をするのは、肉体的にも精神的にもつらいですが、私の話が聞きたいと言ってもらえると、技術者冥利につきます。

専門は、農業土木の水利施設の計画・設計・機能診断で、学問分野としては、水理学が専門です。機能診断の講師として、東北農政局、青森県、福島県、高知県、滋賀県、茨城県を廻りました。この頃は、ストックマネジメント技術高度化事業の業務を行うことが多く、現在も東北農政局の「新技術導入推進委員会」の委員をしています。特殊な経験としては、東日本大震災の後、除染作業に使用するタイベックスーツを着て、帰宅困難区域に数十回入り、震災被害の調査を行いました。また、農林水産省の「ため池等放射性物質対策工法検討会」において、前農業農村工学学会会長等から指導を受けて、放射性物質の低濃度の土と高濃度の土を反転してセメント系固着材で固める「底質の原位置固着」を具体化させ、放射性物質の影響を軽減することに成功し、「ため池放射性物質対策技術マニュアル農林水産省」の作成の一端を担うことができました。水田の津波による塩害に対しては、通常、湛水して除塩しますが、湛水せず、耐塩性作物(緑肥用ソルゴー)による非湛水除塩の実証試験を行い、成功して農家に喜んでいただきました。今後も、いろいろな方から声をかけて頂き、喜んでいただくことを糧として頑張ります。

後藤 秀樹 (ごとう ひでき)

● 農業部門(農業土木) / 総合技術監理部門

勤務先

NTC コンサルタンツ株式会社
北海道支社



→次号は、住友俊夫さん(農業部門)

小～大学までを室蘭市で過ごし、地元と言うだけで何をしている会社なのか調べずに入社して早23年。業務は入社当時から鋼橋上部工の設計に携わり、当時の道路公団などの詳細設計業務を行っていました。この頃、特に思い出深い業務は、阪神大震災で被災した鋼橋の復旧工事であり、1年ほどの間、神戸の現場に常駐し、地震によって倒壊、落橋した現場を目の当たりにしたのは衝撃的で、その後の橋の設計に対する考え方にも大きく影響した思い出があります。

話は変わりますが、最近、我が室蘭市では“てついく(鉄育)”という鉄のものづくりに関する教育を行っており、当社も鉄を扱うメーカーとして年に数回、小・中学生を対象にした工場見学会や親子見学会などを微力ながら開催しています。

私もその中で、小・中学生相手に“橋(はし)について”の講義を行うのですが、“なぜ、橋は車をたくさん通せるか?”、“座屈ってなに?”、“吊橋とかアーチ橋とは?”。という単純な質問を子供に判りやすく教えることがいかに難しいか毎回痛感します。

橋の模型やアニメーションを作って説明してみたり、色々工夫はするのですが本当に理解してもらっているものなのか、私が若手の頃、阪神大震災で目の当たりにした壊れた橋のインパクトの10分の1でも子供が感じてくれて、将来、仕事を選ぶ時に思い出してもらえれば本望なのですが…。

と思いながら、無心に3DSでポケモンに励む我が息子(小学生)を見ると、“期待はできないな…”と改めて資料作りに励む今日この頃です。

西村 公利 (にしむら きみとし)

● 建設部門 (鋼構造及びコンクリート)

勤務先

株式会社榎崎製作所
設計部



→次号は、浅井弘二さん(建設部門)